

氏 名 比 留 間 良 介



所 属 ・ 職 名 美術教育講座（絵画）・教授

研究室電話番号 0742-27-9216
（ダイヤルイン・FAX 兼用）

電子メールアドレス hiruma@nara-edu.ac.jp

最終学歴及び学位 東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了（1970）
芸術学修士（東京芸術大学 1970）

所 属 学 会 等 社団法人二紀会，大学美術教育学会，美術科教育学会

専 門 分 野 絵画・美術教育

研究と教育について

絵画（油彩，水彩，アクリル，テンペラ，ミックスドメディア）による実技制作研究が中心である。1960年代からの初期的研究は，主題を市居の庶民に求めているリアリズム研究を推進。1976年 東京学芸大学附属竹早小学校図工専科から奈良教育大学美術科に赴任，美術科教育と絵画系基礎教育を兼担した。この第二期の特徴は，作品発表が公募展・コンクールへ展開したことと，絵画教育の現場の優れた実践から「主題性と造形性」の構築を学び，自らの制作研究に骨格を作ったことである。1980年代は「School-Bus」シリーズに見る「現代の子ども・人間」を主題に作品研究。90年代に入り（第三期），「投地」「聖フランチェスコの上着」シリーズに見る一層の内面化が進み 2000年の夏からは，造形素材を紙・板にも広げ，主題「双樹形」をテーマに表現の可能性を探っている。造形の追求は年々，その厳しさが痛感され，やればやるほど面白く，また，その深遠さの前に道遠き思いがする日々であるが，不思議に元気で絵の描けることに感謝して生きている。

私の教育の出発点は 1968年 まきば幼稚園（東京都板橋区徳丸）の「お絵描きの先生」体験からである。ここでの感激，手応えがその後の生き方を決定したと思います。人前に立つことが苦手だった私でしたが「眼を凝らし，いつまでも待っていてくれる幼児たち」のおかげで，なんとか話が出来るようになったことは終生忘れない。

主 な 研 究 業 績

- ・論文「東大寺修二会"椿"の考察とその教材化研究」大学美術教育学会誌 第 25 号（単著）平成 5 年 3 月 大学美術教育学会
- ・作品「夜」130 変 カンバス油彩 東京芸術大学卒展 昭和 43 年 東京都美術館（大橋賞）
- ・作品「彼の休息」100 s アクリル・油彩 第 38 回二紀展 昭和 59 年 東京都美術館（二紀賞）
- ・作品「時空を超えて II」150 f パネル地・アクリル 第 52 回二紀展 平成 10 年 東京都美術館（宮本賞）
- ・作品「双樹形」150 f パネル地・アクリル 第 55 回二紀展 平成 13 年 東京都美術館（田村賞）

主な授業担当科目

学 部：デッサン II，絵画 II，図画工作，葛から始まる総合演習，絵画理論特講
大学院：絵画造形特論

学 会 活 動 二紀会絵画部委員（審査員），大学美術教育学会会員，アジア美術家連盟会員，
奈良県美術人協会会員，奈良県美術展（招待），奈良市美術家協会会員

社 会 的 活 動 平成 15 年度 第 23 回近畿高等学校総合文化祭美術工芸部門 指導講師など

講 演 の テ ー マ 世界遺産公開講座③「パリを美るー印象派の出来るまで」奈良教育大学 06.01.07